

# 初中級学習者を対象とした聴解授業

—「聴解演習 B」授業報告—

A Class Report of “Listening Comprehension B” for Pre-Intermediate-Level Japanese Learners

富 田 久仁子

## 要旨：

本稿は、岐阜大学留学生センター日本語研修コースにおける初中級学習者を対象とした聴解授業「聴解演習 B」について報告するものである。2015年度前期・後期に行った授業について、内容や指導方法を報告し、聴解授業のあり方を検討する。

## 1. はじめに

聴解の授業であるが、2007年度に「聴解演習 B」の前身である「聴解演習ⅡA」という授業を担当したのが始まりであった。翌年の2008年度から「聴解演習ⅡA」は「聴解演習 B」となり、現在に至っている。

聴解授業の目的は、「聞く力」を伸ばす事にあるが、「聞く」ことは実際には語彙や文法を知っていることと不可分の関係にある。近年、「聴解演習 B」クラスの対象となる学生について、基礎的な文法の習得がなされていない、または、知っている語彙数が非常に少ない学生が見られるようになった。これは、2015年度後期の学生がより顕著であった。そのため後期は文法復習の時間をとるなど前期とは若干異なった授業内容となった。上記のような学生の文法の未習得や語彙数不足に対応するため、前期後期ともに、基礎的な文法項目も随時復習しながら授業をすすめ、また、聞き取った内容を正しく理解できているか細かく確認しながら授業を進めた。

本稿では、2015年度前期・後期に行った聴解演習 B の授業実践について報告し、初中級レベルの聴解授業について考えたい。

## 2. 授業計画

聴解演習 B では、これまで毎学期初回の授業時にニーズ調査のため自由記述でアンケートを行っている。アンケートの内容は、「日本語の聞き取りで、何が困ったか」「この授業で何が勉強したいか」「日本語能力試験の聴解の勉強をしたことがあるか」等である。2015年度前期と後期のアンケートでは、「日本語の聞き取りで、何が困ったか」という質問に対して、多くの学生が「日本人学生の話がわからない」「普通体の会話、会話独自の表現がわからない」と答えた。また、「ゼミで先生の話がわからなくて困った」「日常生活で困ったことがあった」という答えもあった。「この授業で何が勉強したいか」という質問に対しては、「日常会話の聞き取り」「生活でよく使われる表現」という答が出てきた。

上記の回答は、これまでのアンケートでほぼ毎回見られるものである。留学生は研究室で日本人学生と英語でコミュニケーションをとることはできるが、日本人学生同士の日本語の会話はわからないので、それを理解できるようになりたいという希望を持つようだ。日本人学生の話すスタイルは学習者が日本語のクラスで勉強しているものと違うからわからない、だからそのスタイルの聞き取りを勉強したいという留学生は多い。また、ゼミや日常生活で、「言葉の意味がわからないこと」や「相手の話すスピードが速いこと」により、話が聞き取れず困ったという回答が多かった。

アンケートの学生の回答をふまえて、会話の聞き取り練習を中心に行うこととし、並行して、聞き間違いが起りやすい音、話し言葉において変化する音、縮約形などを授業で扱うことにした。授業を会話の聞き取り練習と音の聞き取り練習の2本立てで行う計画をたてたわけである。その他に、総合Bの授業において使われているメインテキスト（2015年度前期は『中級へ行こう』と『中級を学ぼう』の2冊、後期は『中級へ行こう』の1冊）本文の聞き取りも行うことになっていたため、実際は3種類の聞き取り練習を行うこととなった。

2015年度前期・後期の教材は、上記の総合Bのテキストの他に、会話の聞き取り練習では『聴解が弱いあなたへ』を使用した。このテキストはBクラスの学生のレベルに適しており、会話内容に関する文法や語彙の問題、会話のトピックに関連した留学生が興味を持つような短い読み物もあることから使用を決めた。音の聞き取り練習では、『聴くトレーニング〈聴解・聴読解〉基礎編』『聴解ストラテジー上』『聴解ストラテジー下』を抜粋して使用した。上記のテキストは音の聞き取り練習が多く、聞き取った音を文字で書かせる問題も多いことが使用の理由である。後期においては、復習文法の聴解練習のため、『わくわく文法リスニング』『学ぼう！にほんご初級1聴解練習問題集』『初級日本語聴解練習 毎日の聞きとり50日上』『楽しく聞こうI』『みんなの日本語初級I 聴解タスク25』を文法項目に合わせて抜粋して使用した。

前述のように、近年のBクラスの学生の特徴として、初級文法が身に付いておらず、また語彙数も少ない学生が多くなったことがあげられる。ゆえに聴解演習Bの授業においても、既習文法の定着や語彙数を増やすことを目標の一つとし、文法項目の確認や、語彙の説明などを丁寧に行うようにし、文法と語彙の復習テストを次週に行った。その他に当日の聞き取り練習から出題するディクテーションテストも行った。テストを毎回2種類行ったわけである。復習テストの目的は語彙や文法の定着をはかるため、テスト範囲を事前に示し、テスト範囲の復習を次週までの宿題にした。また、ディクテーションテストは授業内で行う聞き取り練習への学生のモチベーションを高めるため、またその練習の成果を測るために行った。

2015年度前期は上述の授業内容であったが、後期の授業においては、前半5回の授業で文法復習に重きをおいた聞き取り練習を行ったため、前期とは少し内容が異なっている。詳しい授業内容については後述する。

### 3. 授業内容

#### 3.1 2015年度前期

##### 3.1.1 クラスの概要

受講生は13名（集中コース8名、一般コース5名）であった。国籍内訳は、中国9名、オーストラリア2名、アメリカ1名、エクアドル1名であった。

この学期においては、学生の出席時数不足が目についた。専門の授業が忙しくなったという理由で学期後半に欠席が増え、4名が結局修了できなかった。通常に比べて多い数であり、非常に残念であった。

はじめの頃は、復習テストなどの勉強も事前にしてこない学生が多かったが、授業が進むにつれて、勉強してくるようになった。聞き取り練習にまじめに取り組んではいたが、初級文法の理解と基本的な語彙数が不十分な学生がおり、文法項目や語彙の説明に非常に時間がかかることがあった。

学生に行ったアンケートの結果をふまえて、前述の様に、音の聞き取り練習と会話の聞き取り練習、それに加えて、総合Bクラスのメインテキストの聞き取り練習も行った。3種類の聴解練習を学期を通して行ったわけである。

音の聞き取り練習では、学生からの要望（日本人学生の話がわかるようになりたい）に応えるため、聞き分けにくい音（「清音／濁音」「dとr（でんどう／れんどう）」「suとtsu（す／つ）」等）、変化した音（「すごい→すごい」「そのまま→そのまんま」等）、縮約形などを中心に聞く練習を行った。

会話の聞き取り練習では、日常よく使われる語彙を知ることをめざし、日常場面での会話を聞き、語彙の紹介を行った。また、文法の確認もその都度行った。

### 3.1.2 授業活動

2015年度前期の授業の内容について、以下の表1に記す。

表1. 2015年度前期授業活動

回	授業内容	授業内小テスト
1	1) 授業についてのオリエンテーション 2) 授業アンケート実施 3) 『中級へ行こう』本文聞き取り1課 4) 音の聞き取り練習「促音」「撥音」「拗音」長音 5) 会話の聞き取り練習仮定表現の聞き取り「～と「～ても」	1) 実施せず
2	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り2課 2) 音の聞き取り練習「清音」「濁音」 3) 会話の聞き取り練習 敬語表現の聞き取り「～ておく」「～てある」「～ている」	1) 「仮定表現」テスト実施
3	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り3,4課 2) 音の聞き取り練習「似た音の聞き分け」「dとr（でんどう／れんどう）」「suとtsu（す／つ）」 3) 会話の聞き取り練習 「時間の前後関係」の聞き取り「意向形」の聞き取り	1) 「～ておく」「～てある」「～ている」テスト実施 2) 「仮定表現」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施
4	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り5課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」 「～ている→～てる」「～ておく→～とく」 「～てしまう→～ちゃう」「～てあげる→～たげる」 3) 会話の聞き取り練習 「～にする」「服のもよう語彙」	1) 「時間の前後関係」テスト実施 2) 「～ておく」「～てある」「～ている」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施

5	<p>1) 『中級へ行こう』 本文聞き取り6,7課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」 「ては→ちゃ」「なければ→なきゃ」「らない→んない」 3) 会話の聞き取り練習 「位置の語彙」</p>	<p>1) 「服のもよう語彙」テスト実施 2) 「時間の前後関係」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
6	<p>1) 『中級へ行こう』 本文聞き取り8課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」 「と→って」「という→って」「の→ん」 3) 会話の聞き取り練習 「順序」に関する表現</p>	<p>1) 「位置の語彙」テスト実施 2) 「服のもよう語彙」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
7	<p>1) 『中級へ行こう』 本文聞き取り9課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」 「ても→たって」「かもしれない→かも」 「たかな→たっけ」「たらどう?→たら?」 2) 会話の聞き取り練習 「禁止、許可」の表現</p>	<p>1) 「順序の表現」テスト 2) 「位置の語彙」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
8	<p>1) 『中級へ行こう』 本文聞き取り10課 2) 音の聞き取り練習 「促音」「撥音化」まとめ 3) 会話の聞き取り練習 「髪型の語彙」</p>	<p>1) 「禁止、許可の表現」テスト実施 2) 「順序の表現」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
9	<p>1) 『中級を学ぼう』 本文聞き取り1課 2) 音の聞き取り練習「促音化」「拗音化」 3) 会話の聞き取り練習 アドバイスの表現 「干支の語彙」</p>	<p>1) 「髪型の語彙」テスト実施 2) 「禁止、許可の表現」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
10	<p>1) 『中級を学ぼう』 本文聞き取り2課 2) 音の聞き取り練習「母音の変化」 3) 会話の聞き取り練習 「～てもらう」 「敬語」 「銀行に関する語彙」</p>	<p>1) 「促音化」「拗音化」テスト実施 2) 「髪型の語彙」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
11	<p>1) 『中級を学ぼう』 本文聞き取り3課 2) 音の聞き取り練習「カタカナ語」 3) 会話の聞き取り練習 「道案内の表現」</p>	<p>1) 「～てもらう」テスト実施 2) 「促音化」「拗音化」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
12	<p>1) 『中級を学ぼう』 本文聞き取り4課 2) 音の聞き取り練習「話言葉の音の変化」 「すごい→すっごい」「そのまま→そのまんま」 「アクセントの移動」 3) 会話の聞き取り練習 「頻度を表す語彙」</p>	<p>1) 「道案内の表現」テスト実施 2) 「～てもらう」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>
13	<p>1) 『中級を学ぼう』 本文聞き取り5課 2) 音の聞き取り練習「声の調子」「縮約形」 「ても→たって」 3) 会話の聞き取り練習 「誘う表現」 「あいまいな応答」</p>	<p>1) 「頻度を表す語彙」テスト実施 2) 「道案内の表現」テスト返却とフィードバック 3) デイクテーションテスト実施</p>

14	1) 『中級を学ぼう』本文聞き取り6課 2) 音の聞き取り練習「聞き分けにくい音」 「ダ行とナ行」「ダ行とラ行」 3) 会話の聞き取り練習 「受身、使役、使役受身」	1) 「あいまいな応答」テスト実施 2) 「頻度を表す語彙」テスト返却とフィードバック 3) ディクテーションテスト実施
15	1) 『中級を学ぼう』本文聞き取り7課 2) 音の聞き取り練習「聞き分けにくい音」 「ジェの音とゾの音」「ジェの音とゼの音」 3) 会話の聞き取り練習 「擬態語」 4) N3相当の聴解問題を練習	1) 「受身、使役、使役受身」テスト実施 2) 「あいまいな応答」テスト返却とフィードバック

### 3.1.3 授業の流れ

毎時限の授業の流れは下記の通りである。

- 1 前週内容の復習テスト（会話聞き取り練習の中の語彙、文法に関して）
- 2 前週実施したテストの返却とフィードバック
- 3 メインテキスト本文の聞き取り練習
- 4 音の聞き取り練習
- 5 会話の聞き取り練習
- 6 その日の内容のディクテーションテスト（主に音の聞き取り練習に関して）

一時限の授業で扱う3種類の聞き取り練習は以下のようである。

1つ目は総合Bクラスのメインテキスト内の本文（300字～600字程度）の聞き取り練習で、穴埋めディクテーション（語単位、句単位）を行った。これは総合Bクラスの授業内で読解済みであるので、内容にはあまりふれず正しく聞き取ることに的をしばって行った。聞き取った音を正確に書くこと、また、本文は会話文ではないため、聞いた内容についてディクテーションシートを見ないで簡単にまとめて口頭で発表させることも行った。

2つ目は音の聞き取り練習で、聞き間違いやすい音、変化した音、縮約形等を扱った。学生によっては、特に聞き取りを不得意とする音がある。中国人学生では「清音と濁音」が、タイ人学生は「し、ち、す、つ」の音の聞き取りが不得意な学生がいる。学生達が授業内での練習でそれを自覚し、聞く練習のさいにその音に特に注意を払ってほしいという目的もあった。縮約形の聞き取り練習では、「～てしまう→～ちゃう」「～ておく→～とく」等、文法の復習が必要な場合が多く、時間がかかることも多かった。しかし縮約形の説明を聞いて日本人の言っていることがやっとわかったと納得したようであった。また、縮約形の聞き取り練習においては、短い会話の練習問題も多くあり、学生にとっては日常会話を聞く練習になったと思う。会話でよく使われる表現などもここで多く紹介することができた。

3つ目は会話の聞き取り練習で、会話で使われる文法や語彙の確認を行った後聞き取り練習、その後会話の内容に関連する語彙をできるだけ多く追加して紹介した。また、会話の内容について質問や意見、日本と比べた自国の状況の紹介など学生にできるだけ話をさせるようにした。次週の授業時に必ず語彙や文法のテストを行ったため、学生達が自宅学習で復習を行ってきたこと

が良かった点であった。

テストは毎回2種類行った。授業開始時の前述の復習テストと授業終了時のディクテーションテストである。前週の復習テストは会話の聞き取り練習の中で扱った文法や語彙についてのテストで、具体的に勉強する内容を学生に事前に指示しておいた。また、ディクテーションテストは、その日に行った主に音の聞き取り練習の中から抜粋して単語単位、文単位で行った。

最終授業で、N3相当レベルの聴解問題の一部を行った。これは練習として行い、点数化はしていない。授業内で再度問題を聞きながら解答を確認していったが、半分程度できていたようである。もう少し点がとれるのではないかと思っていたが、解答の選択肢が文で示されておらず、選択肢を聞き取って答えるものは難しいようであった。選択肢が文で示されているもののほうが、正解者が多かった。

## 3.2 2015年度後期

### 3.2.1 クラスの概要

受講生は15名（集中コース9名、一般コース6名）であった。国籍内訳は、中国7名、インドネシア4名、タイ2名、アメリカ1名、イラン1名であった。うち1名出席時数不足で修了できなかった。この学生も専門の授業があるということで、後半に欠席が多くなった。しかし、その1名を除いては、このクラスは欠席が少なくまじめで、授業開始時に行う前週の復習テストも、ほとんどの学生が事前に勉強して受けていた。一般コースの学生は欠席が多くなりがちであるが、この期の学生たちは熱心であった。

この学期のBクラスの学生は初級文法の理解が不十分であるということで、総合Bクラスにおいてメインテキストに入る前に授業で初級文法の復習を行った。これは、これまでなかったことである。そして、聴解演習Bでも、総合Bクラスの初級文法の復習項目に連動させて聴解練習を行うことになった。聴解演習Bの授業においては、総合Bクラスですでに復習済みの文法項目の聴解を扱ったが、必ず授業の初めに該当する文法の復習を再度行った。学生の反応が悪い場合は少し長めに復習の時間をとったこともある。その後に、その文法項目を含む聞き取り練習を行った。しかし、文法の復習に時間をかけてしまい、聞き取り練習の時間が短くなったことも多々あったことは反省点である。

このやり方は、該当文法が使われていることがわかった上で聞き取るので、内容の理解もよく、学習者の文法復習にも役立ったと思われる。

### 3.2.2 授業活動

2015年度後期の授業の内容について、以下の表2に記す。

表2. 2015年度後期授業内容

回	授業内容	授業内小テスト
1	1) 授業についてのオリエンテーション 2) 授業アンケート実施 3) 「て形」復習と聞き取り練習	1) 実施せず

2	1) 「ない形」復習、聞き取り練習 2) 「て形」復習、聞き取り練習	1) 「て形」テスト実施
3	1) 「辞書形」復習、聞き取り練習 2) 「た形」復習、聞き取り練習	1) 「ない形」テスト実施 2) 「て形」テスト返却とフィードバック
4	1) 「普通体」復習、聞き取り練習 2) 「～んです」復習、聞き取り練習	1) 「辞書形」「た形」テスト実施 2) 「ない形」テスト返却とフィードバック
5	1) 「授受」復習、聞き取り練習	1) 「普通体」「～んです」テスト実施 2) 「辞書形」「た形」テスト返却とフィードバック
6	1) 音の聞き取り練習「促音」「撥音」 2) 会話の聞き取り練習「敬語」「～ておく」「～てある」「～ている」	1) 「授受」テスト実施 2) 「普通体」「～んです」テスト返却とフィードバック 3) ディクテーションテスト実施
7	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り1課 2) 音の聞き取り練習「拗音」 2) 会話の聞き取り練習「位置の語彙」	1) 「～ておく」「～てある」「～ている」テスト実施 2) 「授受」テスト返却とフィードバック 3) ディクテーションテスト実施
8	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り2,3課 2) 音の聞き取り練習「清音」「濁音」 3) 会話の聞き取り練習「時間的前後関係の表現」	1) 「位置の語彙」テスト実施 2) 「～ておく」「～てある」「～ている」テスト返却とフィードバック 3) ディクテーションテスト実施
9	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り4課 2) 音の聞き取り練習「似た音の聞き分け」 3) 会話の聞き取り練習「禁止、許可の表現」	1) 「時間的前後関係の表現」テスト実施 2) 「位置の語彙」テスト返却とフィードバック 3) ディクテーションテスト実施
10	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り5,6課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」「～ている→てる」「～ておく→とく」「～てしまう→ちゃう」「～てあげる→たげる」 3) 会話の聞き取り練習「順序の表現」	1) 「禁止、許可の表現」テスト実施 2) 「時間的前後関係の表現」テスト返却とフィードバック 3) ディクテーションテスト実施
11	1) 『中級へ行こう』本文聞き取り7課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」「～ては→ちゃ」「～なければ→なきゃ」「～らない→んない」 3) 会話の聞き取り練習「アドバイスの表現」	1) 「順序の表現」テスト実施 2) 「禁止、許可の表現」テスト返却とフィードバック 3) ディクテーションテスト実施

12	1) 『中級へ行こう』 本文聞き取り 8 課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」 「と→って」「という→って」「の→ん」 3) 会話の聞き取り練習 「受身、使役、使役受身」	1) 「アドバイスの表現」テスト 実施 2) 「順序の表現」テスト返却と フィードバック
13	1) 『中級へ行こう』 本文聞き取り 9 課 2) 音の聞き取り練習「縮約形」 「ても→たって」 3) N3 相当の聴解問題を練習 4) アンケート実施	1) 「受身、使役、使役受身」テ スト実施 2) 「アドバイスの表現」テスト 返却とフィードバック

### 3.2.3 2015年度後期の授業の流れ

授業については、前期と同様の部分が多い。しかし前述のように、前半（5回）は文法復習を組み込み、後半（8回）とは授業内容が異っているため、前半と後半に分けて記述する。

前半 10月12日～11月10日（5回）

- 1 前週内容の復習テスト（文法に関わる聞き取りについて）
- 2 前週実施したテストの返却とフィードバック
- 3 その週の文法復習
- 4 復習文法に関わる聞き取り練習

文法の復習とその聞き取りに重きをおいたため、音の聞き取り、会話の聞き取りは行っていない。総合Bクラスではテキストを使用していなかったため、メインテキスト本文の聞き取りは行わなかった。総合Bクラスの授業で復習した文法項目を、その授業から間を置かず扱ったためか、学生の文法の理解は概ね良かった。復習テストも文法に関わる聞き取り練習の中から、文法に重きをおいて行った。

後半 11月16日～2月1日（8回）

後半の授業内容は、2015年度前期の授業と同様の流れで行った。つまり、メインテキスト本文の聞き取り練習（穴埋めディクテーション）、音の聞き取り練習、会話の聞き取り練習の3種類の聞き取りを行い、授業開始時の前週の復習テストと授業終了時のディクテーションテストも前期と同様毎回行った。

最終授業で、N3相当レベルの聴解問題をテスト形式で行った。約44%の正答率であった。絵を見て解答するもの、解答の選択肢も聞き取りのものは比較的できていたが、解答の選択肢が文で記載されている問題の正答率はあまりよくなかった。テスト終了後に多くの学生（特に非漢字圏の学生）が、選択肢の文を読む時間が足りなかったと言っていた。問題文が聞き取れていても、それを解答に反映できなかった学生もいたかもしれない。



#### 4. 授業を振り返って

聴解演習 B の授業を行うにあたり最も考えたのは、様々な言語を母語としている学習者の「聞く力」を、1つのクラスの中でどのようにして伸ばすかということである。個々の学生が、聞き取りにおいて自分の不得意な部分を自覚することが重要であると考え、単音の聞き取り練習では自分の間違えた音に注意を向けさせるようにした。

音の聞き取りで扱った縮約形は説明を聞けば学生は納得し、実際の会話場面で使用された場合にも意味は理解できるかもしれない。しかし、聞き取りが不得意な音については自覚していても、正しく聞くのはやはり難しく、ディクテーションテストで同じ間違いを何度も繰り返す学生が多かった。授業内での練習では限界があり、学生の音の聞き取り能力の向上にはなかなか結びついていけないのが難しい点である。

後期については、学期を通して文法に重きをおいた聞き取りを行ったので、学生の理解があまりよくない文法項目については、文法の説明に時間を費やさざるをえなかった。そのため本来の聞く練習の時間が短くなってしまったことは大いに反省しなければならない点である。文法説明に費やす時間と聞く練習の時間のバランスを調整できるとよかったが、うまくできなかった。文法項目により学生の理解レベルに随分差があったが、みな協力して助け合って授業に参加してくれたことは、非常に良かった点である。今年度は文法復習の聞き取りが終わった後も、会話の聞き取り練習の前に、出てくる文法項目の説明にいつもより時間をさいたが、これは次の聞き取りで注意すべき部分がわかって聞くので、学生の内容理解の助けになったと思われる。また、語彙についても、事前に説明をしておくことも多く行った。しかし実際の場面では、事前に次に話されることについて知っていることはほぼないのであるから、予備知識なしで聞く練習もいれたほうがよかったかもしれない。

基本的な語彙を増やすことも目的の1つであり、そのため日常よく遭遇する場面を想定した会話の聞き取り練習を行ったが、学生も楽しんで会話を聞いていた。会話に出て来たものの他にできるだけ多くの関連語彙や表現を紹介した。例えば「お見舞いに行く」という会話では、病院関連の語彙や日本のお見舞いのマナーを紹介した。また、学生に日本での病院に行った経験やお見舞いの経験、自国のお見舞い等について話をさせた。学生はこのプラスアルファの部分にもよく興味を示し質問も多く出た。会話の中に出てきた語彙や文法のテストでも、自宅学習でまじめに勉強してきた学生が多くテストで良い点がとれていた。

1時限の授業の初めと終わりに2つのテストがあるというのは、学生達には重荷だったようである。復習としての語彙・文法テストと、当日の聞き取りに対するモチベーションをあげるためのディクテーションテストで、種類と目的は異なっているのだが、どちらか1つにしたほうがよかったかもしれない。というのは、学生に負担であるのも理由のひとつであるが、テストの返却時のフィードバックも丁寧に行っていると時間がかかり、他の予定に影響が大きいからである。そうかといって、せっかくテストを行ったのであるから、フィードバックを学生の能力向上につなげたいという思いもある。テストについては、解答をテスト後に配布して授業内でのフィードバックの時間を最低限にするなどの工夫をしなければならないと思う。

## 5. おわりに

「このクラスの学生は、コースが始まったときと比べて聴解能力が向上しただろうか」というのが、いつも学期の終わりに考えることである。教師の側だけでなく、学生自身も聴解能力が高まったと感じているだろうか。聞き取る力の向上は、音を聞き分ける力だけでなく語彙や文法の力が向上して初めて自覚されると考え、聞く練習だけでなく、文法や語彙の定着に時間をかけてきたが、その方針は正しかったのだろうか。文法説明に費やす時間が多くなってしまったことを考えると、授業内で実際の会話に近いものを聞くことに時間をもっと費やすべきだったかもしれない。

後期の最後の授業で行ったアンケートで、この授業の感想を聞いた。文法や言葉の説明があったからよかったという感想も多かったが、一方もっと聞く練習が必要だと思うという感想もあった。限られた時間の中で聞く練習時間を増やすためには、授業内で行っていた文法や語彙の学習を予習宿題として自宅で行うようにさせる等、もっと工夫が必要である。難しいことであるが、方法を考えていきたい。

### 使用教材

小林典子・フォード丹羽順子・高橋純子・梅田泉・三宅和子（2010）『わくわく文法リスニング』凡人社

甲斐沢とし子・黒沢美保・後藤倫子・武田聡子・吉峰晃一郎（2002）『聴解が弱いあなたへ』凡人社

洪川晶・宮本典以子・坂野加代子（2006）『聴くトレーニング〈聴解・聴読解〉基礎編』スリーエーネットワーク

日本語教育教材開発委員会（2007）『学ぼう！にほんご初級1 聴解練習問題集』専門教育出版  
宮城幸枝・三井昭子・牧野恵子・柴田正子・太田淑子（2000）『初級日本語聴解練習 毎日の聞きとり50日上』凡人社

文化外国語専門学校（2013）『楽しく聞こうI』凡人社

平井悦子・三輪さち子（2006）『中級へ行こう』スリーエーネットワーク

平井悦子・三輪さち子（2014）『中級を学ぼう』スリーエーネットワーク

牧野昭子・田中よね・北川逸子（2015）『みんなの日本語初級I 聴解タスク25』スリーエーネットワーク

河口さち子・桐生新子・杉村和枝・根本牧・原田明子（2003）『上級の力をつける聴解ストラテジー 上巻』凡人社

河口さち子・桐生新子・杉村和枝・根本牧・原田明子（2003）『上級の力をつける聴解ストラテジー 下巻』凡人社

新 JLPT 研究会 松岡龍美・青山美佳・谷誠司・TAK 日本語能力試験研究会・金昭雄・長谷川由美（2010）『日本語能力試験模試と対策 N2』アスク出版